

高齢者の余暇活動について（6）

—主にコホート別にみられる満足感と疎外要因について—

○上野 幸、山崎律子、高橋和敏（余暇問題研究所）

キーワード：高齢者、余暇活動、レクリエーション研究、コホート、満足感、疎外要因

はじめに

本研究の背景：本研究は、過去7年間にわたる継続研究（1997～2003、学会大会発表）の一環であり、本研究らデイサービスにおける実践援助、介護予防教室指導、高齢者健康教室指導、その他の実践指導を通して得た知見などが背景にある。

本研究の意義：本研究は、面接を中心にした事例聞き取り調査である。時間がかかり、客観的データ収集には難があるが、対象者の生きる経緯を理解するとともに、話し相手となることは、高齢者個々人の機微を理解できる有効な実践的研究方法の一つといえる。また、継続研究は、高齢者の生き様プロセスを縦断的に観察し得るメリットがある。その成果のひとつは、過去における一連の研究において、この種の研究に対してはコホート概念（同世代、同経験者の群）の採用が有効であることが判明し、その後の研究においてコホートを基準にした検討を加えることとした。

本研究の限界：本研究は、高齢者を質的に理解しようとするものである。したがって量的・客観的に分析するものでなく、量的・数値的説明には適さない。また対象者が高齢であるために健康を損なう率が極めて高く、面接が実施できない場合が多いことも予測しなければならない。

対象と方法

対象：1999年から2004年までの面接者16名中10名

対象者	性別	生 年	初回面接時年齢	今回	出生地	コホート
J氏	男性	大正6年	86歳(2002)	88歳	東京都	C-I*
L氏	女性	大正12年	80歳(2002)	82歳	栃木県	C-II*
B氏	女性	昭和2年	72歳(1999)	77歳	東京都	C-III*
E氏	男性	昭和6年	69歳(2001)	73歳	台湾	" *
F氏	女性	昭和8年	68歳(2001)	71歳	九州	C-IV*
G氏	男性	昭和9年	67歳(2001)	70歳	愛媛県	C-V*
H氏	女性	昭和10年	66歳(2001)	69歳	東京都	C-VI*
N氏	男性	昭和12年	65歳(2002)	67歳	広島県	" *
O氏	男性	昭和15年	(2004)	64歳	東京都	" *
P氏	男性	昭和15年	(2004)	64歳	東京都	" *

***コホート分類について**

1. C-I・・・大正時代の生誕で第2次世界大戦時に軍役年齢である。
戦時中はある者は前線で戦い、ある者は屋内で軍役に服していた。
大正デモクラシーの影響を受けている。戦後退職までは仕事に専念する。
2. C-II・・・大正時代の生誕で第2次世界大戦時に挺身隊または婦人会にて働く。
艦砲射撃や空爆にあう。戦後、子供など家族のために働くかたわら趣味への関心をも広げる。
3. C-III・・・昭和初期の生誕、幼少から軍大国主義への道の最中に育つ。男性は第2時世界大戦時は志願軍役年齢、女性は挺身隊年齢であり、子ども連れて疎開していた。戦後180度転換した中で、生きるために仕事や育児などに専念してきた。滅私奉公の精神が肌にしみついている。
4. C-IV・・・昭和ひと桁の後半期に生誕、幼少時は軍大国主義の中で育つ。都会では疎開を経験し、戦後の貧しい時期を体験。旧制教育制度から新制への転換期を経験。民主的教育も受けている。
5. C-V・・・昭和ひと桁の後半期の生誕、幼少時は軍大国主義の中で育つ。都会では疎開を経験している。はじめから新制民主的教育を受けている。
6. C-VI・・・昭和10年以降の生誕、軍大国主義の中での教育は経験していない。親の保護のもとでの疎開を経験。民主的な教育の中で、いろいろな事を経験し、周囲の人間関係の中から自分の生き方に影響を受けている。現在も働く意欲がある。

調査方法：電話にて事前に説明してから用紙を郵送。

後日直接回収しながら、面接を中心として聞き取り調査を実施した。

面接時間は約2時間を要した。

調査時期：平成16年6月～8月

調査内容：・現在の余暇活動の頻度と満足感について

・現在の余暇活動の阻害要因について

結 果

1. コホート別余暇活動と満足感および阻害要因

1) C-I・・・戦中派、兵役に服した。

<事例：88歳男性>

満足感	趣味活動は「とても満足」 ラジ体操は「あまり満足していない」
阻害要因	運動神経、バランス

2) C-II・・・戦中派、動員された。

<事例：82歳女性>

満足感	趣味活動で実益趣味1は「とても満足」 実益趣味2は「まあまあ満足」
阻害要因	特になし

3) C-III・・・戦中派、後期少年・少女

<事例：77歳女性、73歳男性>

満足感	スポーツ、ボランティア、仕事は「とても満足」 実益趣味は「あまり満足していない」
阻害要因	健康、老い

4) C-IV・・・戦中派、前期少年・少女・疎開経験・旧制小中学校

<事例：71歳女性>

満足感	スポーツは「まあまあ満足」 実益趣味は「まあまあ満足」
阻害要因	家族の健康状況、頻度が少ない

5) C-V・・・戦後派、後期幼児期

<事例：70歳男性>

満足感	海外旅行は「まあまあ満足」、趣味は「とても満足」
阻害要因	日程調整

6) C-VI・・・戦後派、前期幼児期

<事例：69歳女性、67歳男性、64歳男性、64歳男性>

満足感	スポーツ、旅行、実益趣味は「とても満足」と「まあまあ満足」 とが並行
阻害要因	特になしまたは経済的要因

2. おもな個人的特徴

J氏(88歳)：30年近く継続してきている活動をやめる意思は全くない。長い経験により周囲から認められ、より継続への気持ちを向上させている。新しいことにも挑戦しており、習得するための努力をしている。

- K氏（82歳）：周囲から喜ばれていることや、若い人の目標になっていることが継続の力になっている。
- F氏（71歳）：家族の状況などを気にしながらも、マイペースで活動をすすめている。現在の活動をできる限り継続させようと努力している。
- H氏（69歳）：周囲の影響で、パソコンを習い始めたが、購入することはいまだ悩んでいる。
- N氏（67歳）：実施している活動の中で、人のお世話をする活動と、自分のためにする活動に分けている。
- P氏（64歳）：スポーツや地域での活動を中心に、数多くの活動を実施している。

考 察

以上コホート別の結果を踏まえながら、それらの特徴を考察したい。

- ①戦中派以上のコホートは、前に行った面接時の余暇活動種目と共通して変化していない。

余暇活動の満足感については、強いてまとめるならば、ほとんどが満足のカテゴリーに属するといえる。

阻害要因については、健康状況が大いに影響している。体力低下を自覚しながら余暇活動を行っている姿が容易に想像できるであろう。

- ②戦後派以降のコホート群は、身体が現在でも動かせるためか、健康以外の阻害要因をあげている人が目立つ。今回の対象者は、一般の同じコホートでも、いわゆるアクティブな人たちであり、一般化できない面もある。

- ③余暇活動の継続性は、満足感が基底にあり、そのことが継続へのエネルギーに変換していることが理解される。しかし、高齢者は、思想的にも体力的にも若者と異なることに注目しなければならない。すなわち「継続は金なり」という思想があり、かつ体力的にも急激な変化には対応しきれないという特徴がある。

まとめと今後の課題

今回は、余暇活動の満足感と阻害要因を主な項目として面接調査を実施したが、そのプロセスにおいて注意を喚起されたことは二つある。

第一に高齢者研究は量的研究や質的研究を問わず、実施における支援方法の如何に影響されるということである。たとえば、体力測定においても、一般的方法とは別に支援者による、よい支援方法が必要不可欠となる。面接調査においても、面接者の高齢対象者への接し方によって異なってくる。この事実を真摯に受け止める必要があることを改めて認識した。

第二は、本研究は継続かつ累積していくことそのものに意義があるということを確認した。もとより時間的にも人的にも障害があり、これらを克服し、より説得性のある研究に発展させたい。これが今後の課題である。